



もう一つの企画は講演会の開催です。平成16年度以前も総会の機会に講演会を開催していましたが、それに加えて、特に若手会員をターゲットにした講演会を始めました。平成17年秋に長尾真情報通信研究機構理事長(当時)に講師をお勤めいただき、「ユビキタスネット社会における研究開発の展望〜コミュニケーション技術の方向性〜」の演題でご講演していただきました。この講演会には若手会員を中心に幅広い卒業年次から127名の参加がありました。支部からは、講演会終了後に年次毎のミニ同窓会を開催して懇親を深めるようにお願いしましたところ、多くの年次で実行され、大変好評でした。平成18年も同様の趣旨の講演会を開催し、松本絳京大副学長から「京都大学の現状と改革」についてご講演いただき、前年とほぼ同数の119名の参加がありました。前回講演会後のアンケートで、「簡単でもいいから講演後には懇親会を開催して欲しい」、「同期だけでなく他の年次の方々とも懇親会をしたい」などの意見が寄せられましたので、それに応えて、1時間ばかりの簡素な懇親会を実施しました。懇親会経費の一部を参加費の形で負担していただいたにも

拘わらず、殆どの方が参加され非常ににぎやかな会となりました。会の終了後、前回同様、多くの年次でミニ同窓会へと流れて行ったようです。また、2回の講演会の受付時に、洛友会本部に代わって未納会費の納付をお願いしましたところ、殆どの方がこれに応じて納付してくださいました。その結果、17年度の支部会費納入数は前年度を僅かながら上回り、平成18年度は大幅に上回る趨勢です。

最後に、平成19年2月に開催した、4回目の若手幹事会で議論した、新しい取組みについてご紹介いたします。当日特別参加の若手会員から、特に若手会員に関心の高いテーマを選び少数人数(30人ぐらゐ)の勉強会を立ち上げる提案がありました。そのために提案会員の所属組織が東京駅の近くに保有する会議室を開催場所として提供しても良いと言う提案があり、現在実行担当者を決め、テーマ選定、講師選定、実施時期、実施対象など提案の具体化に向けて取り組んでいるところです。これらの企画を、支部幹事だけで実行するのは非常に負担が大きいのですが、学年幹事や、若手のボランティアに分担してもらうことにより、参画する

若手会員自身の洛友会への関心も深まり、勉強会そのものの内容次第では会員の意識に火を点けることにもつながり、大きな効果を生むのではないかと大いに期待しているところではあります。すでに、ITバブルがはじけた後の一時期、下火になっていった、企業内あるいは組織内の洛友会の繋がりを見直そうという動きなどもあるようです。洛友会が真に会員各々に役立つ交流の場として会員の関心を惹きつけることになれば大変嬉しいことだと思います。

**教室だより**

**平成18年度卒業生の進学就職状況について(報告)**

電気工学専攻長 和田 修己  
 電子工学専攻長 北野 正雄  
 電気電子工学科長 佐藤 亨

平成18年度の電気系教室卒業生の進学就職状況についてご報告致します。平成18年度の進学就職状況を纏めたものを表に示します。以下、学生の進学および就職の傾向などについて、学部入試の状況や大学院の改革などともからめて、修士課程学生と学部学生の順に、簡単に説明致します。

電気系教室への企業からの求人依頼は、電気関連企業の好況も反映して平成17年度に引き続き本年度も若干増加の傾向でした。また電気関係以外の他分野企業からの求人も増えています。これは、洛友会の先輩諸兄はじめ諸先輩方のご活躍により、電気電子技術が広く社会全般を支えるインフラとして定着し、さらに分野を越えて様々な幅広い応用が進んでいることによると考えられます。しかしながら学部入試においては逆に、電気系学科の不人気が全国的に広がっており、必要性は高いが眼に見えない技術基盤インフラの難しさが見え始めています。電気系教室ではこのギャップを埋め、優秀な人材を育成するために、本年度から電気電子工学科教務委員会・将来構想委員会を立ち上げて、魅力ある学部カリキュラム作りや高校生等に電気系の面白さを広報する活動を行っています。

の企業で採用が本格化しています。が、1月末に学生への最初の就職説明会を開催し、その後3度の進路アンケートの後に5月初旬に全学生に対して面接を行い、就職希望先を絞った後に学校推薦を行いました。企業によっては学校推薦と自由応募の両方で採用を行っておられたり、学校推薦前にジョブマッチングや自由応募のプロセスで採用を内定される場合があり、推薦調整の際に若干の混乱が発生しましたが、企業に再度「自由応募採用をされる場合には推薦は出せない」旨をご説明してご理解いただきました。結果として、約3/4の学生が学校推薦により就職決定をしました。

平成18年度の就職指導の方法は、ほぼ例年と同様に行われました。電気・電子工学専攻では従来通り、学生に対しても企業に対しても学校推薦と自由応募の何れか一方を選択してもらう方式で進めました。年々、企業からの求人時期が繰り上がり、4月にはかなり

本年度の就職先としては、自動車関係には昨年ほどの希望集中はなく、当初は一部の関西の電気系企業に人気が集まりましたが、ガイダンスと個別面談を経て、最終的には推薦枠に納まり、全般的にみると例年通り電気関係、通信関係、電力関係、機械・自動車関係など各方面に分散する結果となりました。本年度の特徴としては、電力関係が昨年の3名から10名へ(内2名はエネルギー科学研究科より)と増えています。エネルギー科学研究科の電気系研究室から

は、修士修了生15名中1名が進学、残りの約半数が電気関係メーカーへ就職しました。情報学研究科では、昨年度までみられた関西の一部企業への集中が今年度はみられませんでした。就職先としては通信関係が相変わらず多くを占めています。景気回復の気配を受けてか、電機メーカーへの就職が増加する傾向がみられました。情報学研究科に所属する電気系研究室からは、修士修了生の就職者33名中の13名が通信・情報関係企業への就職、14名が電気関係メーカーへの就職、4名が進学となりました。

博士課程に進学する学生の数は依然として少ないのが現状です。その理由の一つとして、日本の電気関係の企業では博士課程を修了した学生に対する人事的評価があまり高くなく、学生には博士課程に進学してさらにキャリアアップしたいという意欲が湧きにくいことが挙げられます。一方、企業の方、特に研究開発に携わっておられる方々からは、今後の日本の電気関係分野を支えるドクターの必要性をうかがう機会が増えているように思います。我々大学関係者としても、確かに従来の徒弟制度型の教育により育成される「ピー

クは高くとも幅が狭く応用が利きにくい博士」では、新たな分野を開拓牽引することは難しいと認識しており、大学院の教育の幅を広げた実質化を目指しています。そのため工学研究科では、複数分野教員による指導を制度として確立し、高い専門能力と幅広い基礎を併せ持つPhD育成を目指して、平成20年度入学の修士課程学生から「博士課程前後期融合教育プログラム（5年コース）」を開始いたします。これは、修士課程進学の時点で博士課程への進学を前提として選考を行い、長期的視野で幅広い能力を持つ博士を育成するプログラムです。また、この融合教育プログラムを担い、あわせて領域融合研究を推し進める組織として、従来のイオン工学実験施設を発展的に改組して、平成19年4月に工学研究科附属「光・電子理工学教育研究センター」を設立します。諸先輩方にもいろいろとご協力をお願いすることになるかと存じますが、是非ともこの趣旨にご賛同いただき、新しい博士課程修了学生をPhDとして受け入れていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

次に、学部学生の進学就職状況について説明致します。大学院修

士課程には、昨年同様、約85%の学生が進学することになりました。その中には他大学院進学者8名を含みますが、これとは別に、平成18年4月に京都大学に新設された「大学院経営管理教育部（専門職学位課程）」いわゆる「経営管理

大学院」への進学者が2名います。これは、経営学修士(MBA)の学位授与を行う専門職大学院です。今後は、このような方向へ進む学生も増えるかもしれません。学部学生の就職先企業に関しては、人数は少ないものの修士課程学生と

ほぼ同様の傾向が見られます。電気系教室では、電気工学専攻と電子工学専攻が桂キャンパスに移転してから約3年半が経過し、各研究室も落ち着きを見せています。4回生の研究室配属から3年間桂キャンパスにおいて研究を続

平成18年度卒業生進学就職状況

工学研究科(電気工学、電子工学)、情報学研究科(通信情報、知能情報、システム科学)、エネルギー科学研究科(エネルギー社会、環境科学、エネルギー基礎科学、エネルギー応用科学)、電気電子工学科

修了、卒業生数	修士	学部	進学・就職先
進学	5		京都大学博士課程工学研究科電気系
	4		京都大学博士課程情報学研究科
	1		京都大学博士課程エネルギー科学研究科
		73	京都大学修士課程工学研究科電気系
		33	京都大学修士課程情報学研究科
		2	京都大学修士課程エネルギー科学研究科
		3	京都大学大学院経営管理教育部(専門職学位課程)
		6	東京大学修士課程
		2	その他
小計	10	119	
官公庁等		1	国土交通省
電気関連	54	8	三菱電機、日立製作所、東芝、ソニー、松下電器産業、NEC、富士通、富士通研究所、シャープ、ソニーエリクソンモバイルコミュニケーションズ、松下電工、住友電工、日立電線、オムロン、島津製作所、ナノオ、キーエンス、ローム、村田製作所、日新電機、古野電気、ルネサステクノロジ、京セラ、新日鉄エンジニアリング、きんでん、半導体エネルギー研究所、堀場製作所、日立メディコ、日本信号、日立産機システム
通信・情報・放送	14	5	NTT研究所、NTT西日本、NTTドコモ、NTTドコモ関西、NTTドコモ中国、NTTデータ、NTTコミュニケーションズ、NTTファシリティーズ、KDDI、JR西日本情報システム、新日鉄ソリューションズ、日本IBMサービス、マイクロソフト、富士通DSE、毎日放送
電力	10	0	関西電力、東京電力、中国電力、九州電力、東北電力
機械・自動車	15	2	トヨタ自動車、日産自動車、本田技研、三菱自動車、デンソー、ボッシュ、三菱重工、川崎重工、新日本製鐵、JFE、富士ゼロックス、東芝メディカルシステム、豊田自動織機
運輸・鉄道	4	1	JR東海、阪急電鉄、日本郵船、近畿日本鉄道
化学・他製造業他	8	0	旭化成、王子製紙、カワサキプラントシステムズ、日本写真印刷、サントリー、日揮、住友ゴム、その他企業
金融・商社等	2	1	三井住友銀行、ゴールドマンサックス証券、日本生命保険
小計	108	18	
未定・研究生・帰国	3	1	
計	121	138	



けた学生が、この春初めて巣立ってゆきます。今後も、電気系教室の卒業生の就職に対して、洛友会の会員諸兄の絶大なるご支援をお願い申し上げます。

### 卒業生送別会および 新入生歓迎会の開催

電気電子工学科では、昨年度より、洛友会との共催で新入生歓迎と卒業生送別の茶話会を開催しています。今年は3月26日に卒業生送別会を百周年時計台記念館2階国際交流ホールで開催しました。

当日は、全学の卒業式に引き続き電気電子工学科において卒業証書授与式を行い、その後送別茶話会を開催し、卒業生のほぼ全員に加えて教職員約10名が参加しました。木村代表幹事より祝辞と洛友会の歴史や意義についてご説明があり、琵琶湖疏水建設を主導したのが学生と同世代の若い技師であったことや京都の進取性など、熱いエールを頂戴しました。その後約1時間懇談を行いました。学生の進学や就職に対する生の声などが聞け有意義な催しであったと思います。

4月6日には、入学式、学科ガイダンスに引き続き工学部8号館

共同1講義室で新入生歓迎茶話会を開催しました。こちらも新入生全員と10数名の教職員が参加しました。長尾会長より祝辞と洛友会に関するご紹介を頂きました。4月よりご就任の国立国会図書館長職のお話から電子図書館、教養の重要性、京都の歴史まで幅広いお話を拝聴しました。その後の懇談では各テーブルで教員を囲んで議論が盛り上がり、学科の全体像がおぼろげながら理解できたという学生もあって、こちらも盛會裡に終了しました。

今後もこの種の催しを各学年で積極的に開催し、学生と教職員の交流を深めて行きたいと考えています。 学科長 佐藤亭

### 教員の異動

退職 (平成19年3月31日付)

- ・ 電気工学専攻 島崎 眞昭 教授 (電磁エネルギー工学)
- ・ 通信情報システム専攻 中村 行宏 教授 (情報回路方式)
- ・ 生存圏研究所 深尾 昌一郎 教授 (リモートセンシング工学)
- ・ エネルギー理工学研究so 吉川 潔 教授

(高品位エネルギー変換) 転出 (平成19年4月1日付)

- ・ システム科学専攻 杉本直三 助教授 (画像情報システム)
- 京大医学部

・ 学術情報メディアセンター 中村素典 助教授 (中村裕一研)

国立情報学研究所 昇任 (平成19年4月1日付)

- ・ 電子工学専攻 川上 養一 教授 (光材料物性工学)
- ・ 生存圏研究所 山本衛 教授 (リモートセンシング工学)

電子工学専攻 須田 淳 准教授 (木本研)

着任 (平成19年4月1日付)

- ・ 電子工学専攻 富士田 誠之 助教 (野田研)
- 佐藤宣夫 助教 (シミュレーションモデラー、松重研)

(4月から職名が、助教授↓准教授、助手↓助教(および助手)に変更になりました。

詳細は文部科学省HP: [http://www.next.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyoof/gijiroku/001/05061602/007\\_3.htm](http://www.next.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyoof/gijiroku/001/05061602/007_3.htm) をご覧下さい)

### 会員寄稿

#### 散歩

井上 茂 (昭48年卒・東北支部)

趣味の欄に「散歩」と「読書」と書く度に、無趣味の言い換えかと思ったりするが、長続きしているのはこれらのみなのも事実である。ここでは私にとつての散歩について書いてみたい。

京都に進学し東北に就職して以降、戻ることのない故郷となってしまったが、私は、東京郊外の練馬で育った。東京オリンピック前から、どんどんと宅地開発が郊外に広がってしまつたが、昭和30年代の練馬は、国木田独歩の小説「武蔵野」までとはいかないものの、武蔵野の面影をまだまだ色濃く残していた。広がる畑と点在する藁葺屋根の農家、榎などの落葉林が醸し出す、のどかな田園風景で、情緒溢れる雰囲気を持つていた。そんな武蔵野の中を歩くのが好きだった。石神井池、三宝寺池、都民農園などが周辺にあったが、目的地のみならず、周辺の道々がどこかで気持ちのよい散歩コースであった。生来、地理好きでもあり、いろいろな道々を楽しむながら

ら歩くことが私の趣味となつていく。

学生時代には、京都や奈良を他人よりは歩いたつもりであるが、所詮は貧乏学生の手で遠出はままならず、今から思えばもつと多く廻っておけばよかつたという悔いもある。また、教養部の藤岡謙二郎先生の歴史地理クラブに入り、輪読などをとおし歴史的景観の美の楽しみを教えてもらった。入学の春の桜満開の折に東山山麓を歩き、まだ名前も知らなかつた哲学の道に行き当たつた時の感動は今も頭に残っている。市内では塔頭の多い妙心寺や大徳寺の境内が好きた。奈良では、奈良公園周辺の寺社を巡る道、飛鳥路、山辺の道などを歩いた。歴史豊かな場の雰囲気に浸ると、あたかも時代を溯つたような不思議な気持ちになる。

私の散歩の仕方を紹介する。自宅近傍を歩くのは、時間が少ない場合や、暑くて夕方しか歩けない夏場に多い。時間が取れる休日は車で目的地近傍まで移動し、そこを起点として歩く。最近公園など公共設備が整備され駐車場が多くなるし、役場の駐車場も解放されていく場合が多く助かる。また、郊外の散策には大型スーパ一の駐

車場を借りることもあるが、この場合は、駐車料金の代わりとして必ず相応の買い物するようにしている。初めて訪れる地では、その地の顔としてまず役場庁舎を訪れその周辺の市街地を見ることとしている。散歩は、特に目的がなくともよく、歩く時間を楽しむことかと思う。私は、ブラブラ、キョロキョロと沿道の庶物を楽しみながらゆつくりと歩いている。ウォーキングとなると、背筋を伸ばし前を見据え、腕を直角に曲げ、大きく振りながら早歩きするのが正式らしい。運動目的にはよいだろうが、歩きを楽しむことが出来なくなりそうでは私には好まない。昔は国土地理院の地図が頼りであったが、最近では細密で見やすい地図が市販されている。知らない土地を歩く場合に便利であるのは勿論、面白そうな道を選んだり、また、地図と現場を照合し納得しながら歩くのも楽しいものである。市街地や住宅街には街毎の風情が、寺社や史跡には心が引きしめるものが、田園にはのどかさが、野山には開放感があり、それぞれが楽しみである。ただし昨今、男一人でキョロキョロしていると、怪しまれる恐れもあり、大概是妻を連れだつて歩いている。

現在住んでいる宮城県内では、仙台市内の広瀬川河畔が、郊外では北上川から阿武隈川の太平洋岸にかけ江戸、明治期に掘られた貞山堀沿いが、気に入っている。近ごろはどこでも地域興しが盛んで、各市町村がそれぞれの顔を作つており、市町村巡りも面白い。周辺の山形、岩手、秋田、福島などの県際にも足を伸ばしているが、中でも山形県の市町村が面白い。最近では高島町内を半日かけて歩いた。如何せん日帰りである、と、往復に時間を食つてしまひ、実際に歩く時間が削られてしまうのが難である。減多にないが、速出して宿泊する時はビジネスホテルを使う。

我々、団塊の世代はもうすぐ、会社社会の表舞台から引つ込む時が来る。スケールの小さな夢で恥ずかしいが、自由に時間が取れるようになれば、国内のいろいろな場所の歩きを楽しめればと思つている。それには、観光地を巡る旅行ではなく、その地に室を借りて滞在、生活し、そこを拠点として歩きを楽しみたいと考えている。京都の大路小路を散歩できるよう、京都に拠点を構えてみるのが先ずは手始めか。そこから、奈良、和歌山にも足を伸ばし、学生時代

に叶えることの出来なかつた歴史豊かな箇所の歩きを楽しみたい。次は関東、瀬戸内、九州、四国、どこを拠点としようかなど想いは広がる。足が丈夫でないと夢は叶わない。暫くは、東北地域の散歩で足を鍛えておきたい。

「洛友春三題」

孤舟

(昭57年卒・関西支部)

春悠の夢 刻みけり 時計台

若き日の 吉田の山の 重ぐさ

哲学の道に 思索や 花月夜



最近の趣味の話

松浦 弘樹

(平7年卒・中部支部)

ここ半年ほどであるが、園芸(庭いじり)に凝っている。私をよく知らないひとがこのことを聞くと、「いい趣味ですね。」といったような反応を示して頂けるのだが、友人などからは「どうした

の?」や「変わったな。」というような反応が返ってくる。というのも、半年前までの趣味といえば、競馬、パチンコ、マジャンといった園芸とは対極にあるようなものであったのだ。

そんな私が、なぜ園芸にはまっているのか?そのきっかけは、ありがちな理由ではあるが、半年前にマイホームを建てたことにある。所得税の住宅ローン控除が縮小の方向にあり、そのうち消費税も引き上げられそうだし、2年もすれば長男が小学校に上がるということで、思い切つて家を建てたのであるが、小さな庭はフェンスで囲つただけの必要最低限の施工までしか手が出なかつた。

しかし、リビングに面したその庭の向こうには1m程下がった土地に十台程度の駐車場があり、そこからの視線が気になる(実際に見られているわけではないが。)ので、生垣を自分達で植えようという事になったのである。

そこで、どのような木を植えるか、インターネットと近所の家を参考にしながら選ぶことにした。前述したように、これまで園芸とは程遠い生活を送つてきているし、植物の栽培など、小学校の朝顔の観察以来なので、できるだけ

手間のかからない丈夫な木にしようとして色々種類を調べた。しかし、丈夫な木は、すなわち成長力が強いので定期的に刈り込む必要があり、刈つた枝の処分なども考えなければならぬし、都合よく手間要らずな木はそんなないという結論にすぐ到達した。

そんな中、インターネットの園芸関連のページで見つけたのがブルーベリーであった。

ブルーベリーは、成長しても2メートル程度と手頃であり、病害虫にも強く無農薬で育てられるという利点があり、なによりも果実を楽しむことができるという魅力があった。また、育て方はやや特殊な特徴があるものの、それさえ押さえれば育てるのは簡単だそうで、実を収穫するという目的があれば、少々の手間は克服できるのではないかと考えたのだ。

それ以来、主にインターネットでブルーベリーについて調べたのだが、ブルーベリーに関するホームページを開設している業者や愛好家が意外と多く、情報収集には事欠かず、結局、現在まで本を買うことはなかった。

さて、ブルーベリーには、200種類以上もの品種があり、主な品種の系統として、暖地(ミカンの栽



培地域)向きのラビットアイ系と寒地(リンゴの栽培地域)向きのハイブッシュ系に分かれている。この他に、ハイブッシュ系を暖地向きに改良したサザンハイブッシュ系や極寒地向きのローブッシュ系、ハーフハイブッシュ系がある。

また、ブルーベリーは単一品種を栽培するよりも同一系統の複数の品種を並べて栽培した方が、受粉の成功率や実の大きさが良く、愛知県にある我が家では、ラビットアイ系とサザンハイブッシュ系を数品種ずつ植えることにした。

次に、品種選びであるが、品種によって、実の大きさや味、木の成長の仕方や栽培の難易度が異なり、まずは最大の目的である実の味の評判が良い品種で、かつ本来の目的であった生垣向きの直立性(木が縦に成長する。)の品種をピックアップしていった。選んだ品種の入手については、ホームセンターなどに置いてある苗木は状態を目で確認できる利点があるものの、表示の品種と実際のものとの異なるケースも結構あるらしいので、信頼の置ける通信販売の苗木業者から購入することにした。

そして、ブルーベリーを植え付ける土壌であるが、これがブルーベリー栽培の特徴の一つであり、

酸性で、保水性、通気性に優れた用土にすることが必要となる。酸性の土にするには、ピートモスといて、湿地などに水苔が堆積してできた強酸性の用土を使用する。また、最近、ブルーベリー栽培において、通気性が重要視され、針葉樹の樹皮や小枝のチップを用土として利用することが注目されてきており、我が家もこの針葉樹チップを主体として、ピートモスと元の庭土をブレンドした用土を用いることにした。しかし、これが重労働で、スコップ一本で庭を幅70センチ程度、深さ50センチ程度の帯状に掘り起こしていき、掘った土をふるいにかけて、チップとピートモスを混ぜ合わせて、またもとの掘った穴へ戻すといった作業を毎週末、少しずつ実施している、4ヶ月掛かって、ようやくブルーベリーの植え付けが完成したのであった。

おかげで、近所でも評判だったようで、嫁さんが「近所と会うと、「旦那さん、がんばってるね。」としばしば声をかけられたそうで、新しい土地でのご近所付き合いに一役買っているようである。

さて、最近のブルーベリーの様子であるが、今年は暖冬ということもあってか、2月の下旬頃から

新芽や蕾が膨らみ出しており、まあそれなりに順調のようである。まだ、木が幼いので、今年の収穫はあまり期待できなさそうであるが、何はともあれ楽しみである。次なる計画は、庭に芝を張ることである。私の園芸ライフはまだ続く・・・



**同窓会だより**

**昭和31年卒業50周年同窓会**

昭和31年電気工学科卒業50周年同窓会を、2006年12月4日(月)、5日(火)の両日、京都で開催した。同窓生33名、同窓生夫人2名、計35名の方が参加しました。48周年同窓会を2004年5月に京都で開催したので、50周年は紅葉が残る晩秋の12月初旬に計画しました。心配した天候も両日共に快晴に恵まれて快適な2日間を過ごしました。

4日13時京都駅に集合し、貸し切りバスにて紅葉の名所東福寺を観光、その後大吉祥キャンパスに移動、懐かしい旧電気工学教室を訪ねました。大学院情報研究科吉田教授に



案内頂き、旧電気工学教室の変遷と現状、工学部の最近の学科編成等についてご説明を受け、その後電気工学関連実験設備、講義室等の見学をさせて頂きました。赤レンガの正門等昔の面影を残しているものの内部は全面的に再編されている現状を実感しました。同窓会は12月4日午後6時から京都東急ホテルで恩師坂井先生をお迎えして開催、先生のご挨拶、乾杯のご発声に引き続き各人の近況報告を聴きながら歓談し、また話の尽きぬ方も多く、ホテル内2次会場に移動し遅くまで旧交を暖

めました。

5日は希望者約20名で真如堂、南禅寺を観光後、岡崎の白川院で京都名物豆腐料理での昼食会を行いました、懐かしい晩秋の京都を楽しみました。

31年卒業生は既に70余才となり、従来の5年間隔開催の短縮要望もあり、45周年(2001年11月於横浜)、48周年(2004年、5月於京都、桂キャンパス見学)に引き続き50周年同窓会の開催となりました。次回は関東方面で2、3年後に再会をすることになった。尚48周年同窓会以後に同窓生の

笹田晃、谷村實両氏がお病気のためご逝去になりご冥福をお祈りします。 文責 辻垣淳一

**本部だより**

**役員会報告**

平成18年度役員会は、去る2月3日(土)午後2時より、近藤名誉会長、長尾会長、本部役員、および関西支部を除く8支部長の総勢19名の出席を得て開催された。会長の開会挨拶、ならびに近藤先生のお元気なスピーチの後、議事が進められた。議題は、平成19年度事業計画案

並びに予算案のほか、19年度は役員改選の年に当たるとため本部役員の変更案が承認された。幹事については、木村幹事、神戸幹事、大澤幹事、吉田幹事の再任が承認された。(鈴木幹事はあと1年の任期途中。会長、副会長は本部総会での決定事項。)

事務局 記

**本部総会開催のお知らせ**

平成19年度本部総会は左記により開催されます。多数の方々のご来場をお待ちいたしております。

記

日時 平成19年6月10日(日)

東京支部総会終了後

場所 学士会館

TEL 03-329-15936

**長尾先生、  
国会図書館長にご就任**

新聞等でご存知のように、本会会長の長尾真先生(昭和34年卒)は4月1日付けで国会図書館の館長に就任されました。(独立行政法人情報通信研究機構の理事長はご退任。)初代館長を除いてこれ

まで衆議院、参議院事務総長経験者が務めるのが慣例でしたが、初の民間からの就任になります。ご活躍をお祈りいたします。

**名誉教授 上之園親佐先生  
ご逝去**

訃報欄にありますように、名誉教授の上之園親佐先生(昭18年卒)がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

上之園研究室同窓会主催の「上之園親佐先生を偲ぶ会」が以下のように計画されていますので、お知らせいたします。

6月17日(日) 13:00~15:00

京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール

(香典、供花は辞退)

問い合わせ先…山本修

(075-383-2229)

**洛友会名簿の発行**

大変お待たせいたしました。3年4ヶ月ぶりにやっと洛友会名簿の印刷が完成し4月中にお手元にお届けできる運びとなりました。今回は個人情報保護法施行後の最初の名簿発行となり、名簿に掲載する事項の許諾を頂くアンケート

(基本調査票)を会員全員にお送りすることから始まり、完成までに随分時間を要しました。これには次のような経緯が絡んであります。名簿管理システムはこれまで京都のコンピュータ会社に委託しておりましたが、事務局の我々がデータの出入力にタッチできず、データの更新、会費の管理等が大変非効率となっておりまして。今回これらすべてのデータを上記会社から引き取り、洛友会事務局分室のパソコンに収納することにより会費納付状況の管理等すべてのデータ管理を一元化致しました。

お蔭で、会員氏名に含まれる外字などもすべてパソコン内で作成したものを印刷名簿にも反映できることになりました。今回はこれらのシステム構築に予想外に手間を取りましたが、今後はすべてが大変効率よく進み、また名簿編集印刷の費用の軽減も期待できそうです。事務局としては、個人情報の漏洩が決して起らぬよう細心の注意をしておりますが、受け取られた名簿は今後とも古紙回収業者を通じて処分など、情報漏洩につながることをなさいませんようくれぐれも取り扱いにご注意をよろしくお願い致します。

なお、アンケートにご回答いただいた会員数は3201名、今回の名簿に住所あるいは勤務先のどちらかの掲載を可として頂けた方は2871名で居所の判明している会員の50.5%にとどまりました。従って50%弱の方々の情報が空白となりましたことは残念なことであり、また会報などが届いていない方もアンケートにご回答頂けなかった方々が2480名ほどおられます。今後の継続した名簿発行のために、会報や名簿の届いている方々でなんらの情報も記載されていない会員の方々は、可能な限り名簿に綴じこんだ基本調査票の届きによりご回答を頂きますようご協力をお願い致します。また居所不明(名簿上\*印)の方の情報をご存知の方は、ご本人にそのことをお知らせいただき、事務局へご連絡頂けるようお願い致します。もし個人情報に記載した方がきを事務局に送ることを躊躇される方々はお手数ですが、記載の届きを封筒に入れてご送付いただければ幸いです。洛友会の今後の活動、および会員相互のコミュニケーションのために御協力をお願い致します。

では現在未確定ですが、今回の新名簿をご覧頂いた会員の皆様のご意見なども勘案の上、決めさせて頂きたいと考えております。今回から各支部のご意見により、広告掲載をとりやめましたので、予算の関係からも早く3年間隔程度になるのではないかと予想しております。会員の皆様のご意見ご感想を是非、事務局迄お寄せ下さるようお願い致します。

今回の名簿は昨年度会費を納入いただいた会員にお送りしますが、会報4月号に同封した会費の納付依頼書で会費を振り込んで頂いた方々にも名簿をお送りいたしますので会費の納入もどうかよろしくお願い致します。

(代表幹事 木村磐根)

**支部だより**

**中国支部**

**第5回 企業見学会開催**

中国支部では、平成18年12月9日(土)に「第5回 企業見学会」を開催しました。

今回は、池内前支部長をはじめ11名の会員の方に参加いただき、広島市西区の株式会社東洋高



庄を訪問しました。  
見学会に先立ち、西区横川で昼食会を行いました。会話がおおいに盛り上がり、会員相互の交流を深め、私も先輩方からの興味深いお話を伺うことができました。

訪問先の株式会社東洋高圧は、昭和56年に設立され、主に実験装置の製造開発を行う会社です。たずさわる分野は高温高圧や真空分野をはじめ、石油化学、新エネルギー、食品化学など多岐にわたりますが、製造する実験装置は個々に仕様が異なり、世界に一つだけ

のものが多くあります。高い技術力を有しており、特に、「超臨界抽出装置」でシエアナバーワンです。

まず、野口社長から、ダイオキシン等の分解から醤油やお酒、化粧品まで、超臨界技術の持つ様々な可能性について、パンフレットとパワーポイントを併用しながら、非常に興味深いお話を判り易くご説明いただきました。

その後、工場内をご案内いただきましたが、私たち電気系の参加者にとって、超臨界技術はあまりなじみのない技術分野であり、新鮮な感動をもって、工場見学することができました。

また、ライバル企業を寄せ付けないノウハウの蓄積により、多様な機器の開発を行い、高い競争力を持つ企業の経営者である野口社長自らのお話を伺うことで、大いに刺激を受けることができました。

最後に、会社の前をお借りして、集合写真を撮影し、解散しました。今後ともより多数の会員に参加していただける企画を実行し、洛友会中国支部の活動を盛り上げていきたいと思えます。

(平成10年卒 平岡正憲) 記

### 支部総会のお知らせ

平成19年度の各支部総会は左記の日程で開催されます。場所・時間など詳細は各支部幹事の方よりご案内があります。ふるってご出席ください。

- 5月11日(金) 九州支部  
連絡先：岡崎幸治氏  
Kouji.Okazaki/KYUDEN  
@kyuden.co.jp
- 5月12日(土) 北海道支部  
連絡先：木元伸一氏  
kinotos@icom.home.ne.jp
- 5月31日(木) 中国支部  
連絡先：岩見紀征氏  
261326@pnet.energiac.co.jp
- 6月1日(金) 四国支部  
連絡先：宮谷 茂氏  
miyatani5066@yonden.co.jp
- 6月3日(日) 関西支部  
連絡先：齊藤ゆみ氏  
yumi@arincl.omron.co.jp
- 6月9日(土) 北陸支部  
連絡先：林 正則氏  
hayashimasanori@rikuden.co.jp
- 6月10日(日) 東京支部  
連絡先：大矢智之氏  
webmaster@rakuyukai.org
- 6月16日(土) 東北支部  
連絡先：秋山康人氏  
W840261@tohoku-epco.co.jp
- 6月23日(土) 中部支部  
連絡先：安藤和史氏  
kazushitandou@rrr.meitetsu.co.jp

### 事務局だより

#### 平成18年度会費納付状況報告

毎年行っている2月末現在の会費納付状況についてご報告いたします。

2月末現在の会員数は、6,927名で会費を納めて頂いた会員数は、2,225名でした。前年より149名の増加となりました。納付率は、32.74%で前年度より増加しています。

図1は年度別の納付率を示し、図2は卒業年度別のグラフですが平均値で前年より2.4%増加しています。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

事務局 記

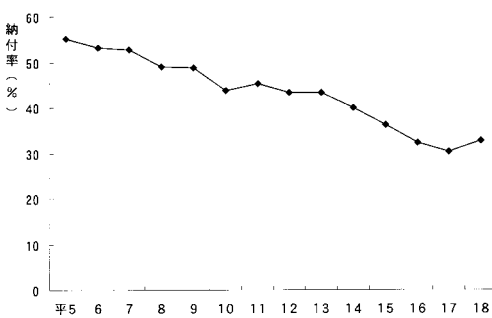


図1. 年度別納付状況 (平成19年2月末現在)

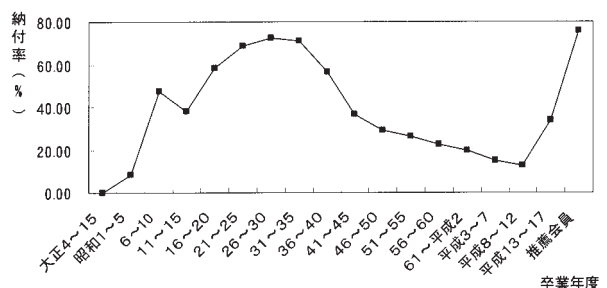


図2. 卒業年度別納付状況 (平成19年2月末現在)

### 訃報

昭18	上之園親佐	19	3	14
昭24	佐溝 保逸	18	7	
昭24	生駒 鏡郎	18	12	22
昭24	中野 稔	19	2	2
昭25	谷口 浩一	19	1	24
昭27	大家 郁夫	18	8	9
昭32	安藤 和昭	19	3	16
昭40	田中 敏夫	18	12	30

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。